

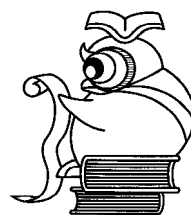
ぱびるす



聖学院大学総合図書館報

第66号(2018年春)

祝卒業・
新入生歓迎号



図書館の思い出

—ブック ピロー—

小林 茂之



ブック ピロー (book pillow) と聞いて、皆さんはそれが何であるか想像できるでしょうか。読書をしていて、眠くなったら、使う枕のように思われたかもしれません。しかし、それは、人のための枕ではなくて、本のための枕なのです (写真を参照)。貴重な写本をみる場合、写本の一葉 (folium) が綴じられている背表紙を守るために使われます。写本を閲覧する時、その上にページを開くと開き方が狭くなるので、そのままではページが閉じてしまいます。それで、写本閲覧用の紐状のウェイトを載せて固定します。

日本では、図書館で古英語や中英語が書かれた写本を実際に閲覧する機会はほとんどないでしょう。私も、ケンブリッジ大学図書館で古英語や中英語の写本を初めて閲覧することができました。驚いたことには、英国の図書館では素手で写本をめくって試みる事が許されていることです。和書の古文書を閲覧する場合、手袋を使うのが常識ではないかと思います。羊皮紙 (parchment) と和紙とでは、扱いが異なるのですが、実際に触ってみるテクスチャーが重要らしいのです。

それでは、ケンブリッジ大学図書館で、写本を閲覧する際の手順を説明しましょう。はじめに、利用者証を発行してもらわなければなりません。その手続きは、入口左手の地下のオフィスで、書類に必要事項を記入して、写真入りの入館証を発行してもらいます。その際に、写本を閲覧するための書類を記入します。ただし、ケンブリッジ大学のコレッジなどのセクレタリーからその書類にサインをもらうことなどを求められます。なお、日本人の図書館員 (キュレーター) がいるので、呼んでもらえば、相談にのってくれるはずです。

写本は、写本閲覧室内 (Manuscripts Reading

Room) のカウンターで請求します。請求票にカタログ (閲覧室内、または web 上からも利用可) で写本の請求番号を調べ記入します。後は、図書館員から呼ばれるのを待ちます。さて、そこで、ブック ピローが必要となります。室内の棚にブック ピローと紐状のウェイトが置かれているので、それらを閲覧用のテーブルに持ってきます。カメラで撮影することも基本的に許可されていますが、写本の開き方が大きいと注意される場合があります。

重要な写本の多くは、EETS (Early English Text Society) などで翻刻されて出版されています。しかし、原本と比較してみると、学術的に貴重な経験以上のものです。今まで見た最古の写本は、ベータ『英国教会史』の738頃に書写された写本 (MS. Kk. 516) です。それを実際に手で触り、閲覧するという経験は実に感動的であり、人文学の研究者であることの喜びに浸ったことはケンブリッジ大学の図書館の思い出の一つです。

(人文学部日本文化学科 教授)



ブック ピロー (撮影: 小林 茂之)



「求めよ、 さらば与えられん」

114J040 染谷 友梨



聖学院大学に入学して間もない頃、慣れない大学生活の中で図書館は私にとってリラックスできる唯一の場所であった。本を読むことはもちろんだが、高校には無かった映画を見ることが何よりも楽しみだった。大学の生活に慣れながら、少しでも時間ができれば自然と足は図書館に向かっていった。

その後ライブラリー・アシスタント (LA) を始めた。図書館はリラックスできる場であり、働く場にもなった。図書館で働くようになり最初は簡単な業務を、学年が上がるにつれ、任せてもらえる仕事が増えていった。初めて作ったポスターが館内に掲示された嬉しさは今でも鮮明に覚えている。LA の仕事をして気が付いたことは、所蔵されている本は多くの人に関わり、いくつもの時間と工程を経て書架に並んでいることだ。その工程の中に自分があることが LA の仕事をする上で大きなモチベーションだった。

いよいよゼミでの専門的な学びが始まった時、図書館は学術情報の宝庫としての機能をも合わせ持つ場となった。私が研究していた分野は先行研究や史料がなかなか見つからない分野だったので、日々情報や史料収集のために図書館に足を運んではデータベースや文献を漁っていた。この図書館では所蔵が無いこともあったが、そんな時は LA で培ったスキルを存分に活かす事ができた。

私の大学生活 4 年間は常に図書館と共にあり、図書館は常に私が求めるものを提供してくれた。それは本や資料だけではなく、時に仲間との語り場として、時には 1 人でゆっくりと過ごすことができる場所として、どんな時でも暖かく迎え入れてくれる、それが聖学院大学総合図書館なのだ。

4 年間ずっとお世話になった図書館には本当に感謝してもしきれない。皆さんも是非自分なりの図書館を作ってもらいたい。そうすれば充実した大学生活が送れるに違いない。皆さんが求めればきっと図書館は応えてくれるはずだ。

(日本文化学科 4 年)

「楽しみと 新たな発見」

115A015 小泉 建人



本は人の心を動かすきっかけになるものの一つである。私は人生の中で大きな決断をする時に本を頼りにする事があった。そして、これからも本を頼りにする機会があるだろう。本を実際に手でページをめくって読むためには書店か図書館に足を運ぶ事が多いだろう。新しい本が多く揃う書店と新しくなくても様々なジャンルの本が揃う図書館。この図書館には学部や学科に応じた資料が数多くある。私はここで初めて出会った資料を読み何度も目を輝かせた。図書館は私が大学内で一番落ち着ける場所である。レポートを作成したり課題をするため、ON の気持ちを入れるためにも図書館は私にとって必要不可欠な場所だ。

入学当初から「図書館でアルバイトをしたい」という気持ちはあった。だが時間割の都合でそれを諦めてしまっていた。大学 3 年の夏季休暇中、自分の可能性を広げたいと感じ、学内で一番落ち着ける場所でアルバイトをしたいと思った事がきっかけで私はライブラリー・アシスタントに応募した。採用が決まり夏季休暇明けから勤務した私はこのアルバイトをきっかけに他の場所では体験できない事も多く体験し視野が広がった。書架整理は本が棚に綺麗に入っているかを確認したが途中で興味深い資料に出合う事もあった。勤務後にその資料を読み新たな世界観を作り出した。「来週はまた新たな本に出合えるだろうか」勤務後はよくそう考えていた。POP 作成では自分の気に入っている本を紹介するためにその本の魅力を文字で表した。「自分の好きなものを多くの人に伝えるように考え工夫する作業」は一種の自己表現である。この自己表現は大学以外の場でも大切になる。そのための練習として良い機会になった。私はこれからもライブラリー・アシスタントを続け図書館に恩返しをしていきたいと考えている。「今度はどんな本に出合えるだろうか」このように思わせてくれる図書館にこれからも関わり続けたいと願ってやまない。

(欧米文化学科 3 年)

International Games Week

～図書館でゲームをする日～

International Games Week (IGW) は、米国図書館協会 (ALA) の呼びかけで2008年から行なわれている国際的な図書館イベントで、「本や図書館員に囲まれてゲームをすることで、さまざまな仲間と交流して親交を深め、知識を共有する」ことを目的とするものである。

2014年ごろから日本からも IGW への参加が見られるようになり、2017年には図書館総合展で「図書館でゲーム部」(都留文科大学・日向良和准教授)によるブースが出展されたほか、公共図書館等で IGW 及び関連のイベントが数多く開催されている。本館では、2016年より IGW に参加を始め、2017年にはヴェリタス祭の展示企画の一つとして11月3日～4日の二日間、ボードゲーム・カードゲームの体験イベントを開催した。

図書館でゲームをする必要性はあるのかと首を傾げる人もいるだろう。だが、よく考えてもらいたいのだが、図書館は本の貸出をするだけの場所ではない。本館にアクティブラーニング室があることから分かるかと思うが、図書館は、その空間を通して、人と人、人と情報・知識が交わる場所でもあるのだ。ゲームを通して他者と交流することや新たな知識・図書との出会いを作り出すことで、教育的な効果を得ることが出来る。例えば、ゲームをする際、ルールを知らない人には、ルールを説明しなければならないが、それにはルールを正しく理解して、それを言語化し、分かりやすく他者に説明する必要がある。そのためには論理的な思考と高いコミュニケーション能力が求められる。また、図書館には多くの資料があり、ゲームを通して興味関心を広げ、関連する図書から知識や教養を豊かにして行くことが可能である。

これからの図書館は、ゲームに限らず様々な視点から図書館の資料と空間を活用して、人と人、人と資料を繋ぐことができる場所となるべきであると考え。今後も引き続き IGW や様々なイベントを企画して知の交流の場を作り、学部学科・学年を超えた学生同士の交流や図書館資料の活用に繋げていければと思う。

2017年度 図書館の動き

●プリンターアップグレード

図書館の2階以上の全ての階にプリンターが導入された。また、1階プリンターもアップグレードし、学生証なしでも印刷が可能になった。

●ビブリオバトル

全国大学ビブリオバトルで、本学学生が3年連続で首都決戦に出場し、2度目の決勝戦進出を果たした。また、11月には埼玉県初となる関東地区決戦を主催した。

●電子資料増加

購読雑誌のうち、オンライン購読可能な雑誌はすべて電子ジャーナルに移行した。また、Maruzen ebook Library の試読サービスを実施し、電子書籍も大幅に拡充した。

●宗教改革500年

宗教改革500年を記念して、展示を行った。並行して貴重書の充実を図った。またこの展示が毎日新聞に紹介され、反響を呼んだ。

●図書館公式 Instagram アカウント開設

図書館公式インスタグラム (@seig_viewkun) を開設し、今まで絵だけであった図書館公式キャラクター view くんを立体化した。



●ドッグフォトコンテスト2018開催

成年にちなみ、教職員・学生参加型のドッグフォトコンテストを開催した。

●書架リフレッシュ点検を実施

●図書館システム変更後初の蔵書点検実施

●聖学院大学公開イベント実施

OKEGAWA hon プラス+で、9月にビブリオカフェ&ビブリオバトル、翌2月に氏家理恵先生(人文学部欧米文化学科教授)による講演会「カズオ・イシグロ『日の名残り』の世界」が開催された。

2017年図書館の統計

(2018年1月31日現在)

I 図書館の推移

	学生数	蔵書数	年間受入冊数	開館日数	貸出冊数	資料費
	人	冊	冊	日	千冊	千円
2017	1,725	306,655	3,483	274	8.6	26,666
2016	1,846	306,694	3,304	280	9.9	26,285
2015	2,098	304,757	3,943	283	11.5	26,718
2014	2,161	300,897	3,053	281	13.3	27,788
2013	2,419	299,396	3,343	282	14.2	27,216
2012	2,513	296,694	4,261	283	15.8	27,654
2011	2,677	293,148	4,930	275	16	30,849
2010	2,768	288,629	5,116	288	16	30,465
2009	2,724	283,610	5,042	281	16.9	30,497
2008	2,827	277,506	6,570	280	17.6	30,583
2007	2,875	273,877	8,148	276	17.9	32,267
2005	2,968	254,921	6,878	232	18.4	29,700
2000	2,549	219,368	6,769	274	18	35,805
1995	2,137	163,506	13,438	271	21.5	39,700
1990	1,769	96,752	8,195	280	11.8	22,650
1985	1,005	51,000	5,043	284	10.1	12,399
1980	877	36,000	2,599	236	6.8	7,588
1975	763	22,000	4,265	183	3.5	3,754
1968	256	10,000	2,838	[247]	[1.4]	[1380]
1967	125	7,000		[247]	[1.4]	[1380]

規程の変更に伴い、1999年以降は消耗品図書も含めた冊数とした。

II 蔵書冊数

	和書	洋書	合計
総記	11,586	1,453	13,039
哲学・宗教	22,300	16,208	38,508
歴史・地理	19,793	3,383	23,176
社会科学(含教育学・福祉)	84,872	18,811	103,683
自然科学(含医学)	13,322	1,216	14,538
工学(含家事)	7,252	483	7,735
産業	5,688	471	6,159
芸術(含楽譜)	10,982	951	11,933
語学	11,244	2,963	14,207
文学	43,594	14,293	57,887
その他	10,349	5,441	15,790
合計	240,982	65,673	306,655

III その他の蔵書資料数

和雑誌(紀要・寄贈含)	385	カセットテープ	685
洋雑誌(寄贈含)	81	ビデオ・LD・DVD	3,199
スライド	34	CD	1,373
マイクロ資料	18,814	CD-ROM	838

IV 館外貸出冊数(図書・製本雑誌):分類別

(2017年4月1日～2018年1月31日) 学生・院生・履修生のみ

	和書	洋書	合計
総記	293	0	293
哲学・宗教	989	8	997
歴史・地理	500	6	506
社会科学(含教育学・福祉)	2,407	21	2,428
自然科学(含医学)	261	0	261
工学(含家事)	129	0	129
産業	134	0	134
芸術(含楽譜)	468	0	468
語学	796	16	812
文学	1,449	10	1,459
その他	760	2	762
合計	8,186	63	8,249

V 館外貸出冊数:学科・学年別

(2017年4月1日～2018年1月31日)

所属・学年	図書(製本含む)	未製本雑誌	CD
政治政策	2年 1年	10 7	0 0
アメ・ヨ文化	後3年 後2年 後1年 2年 1年	319 4 3 80 110	0 0 0 0 0
人間福祉	2年 1年	47 16	0 0
科目等		5	0
大学院生小計		601	36
政治経済	4年 3年 2年 1年	200 204 426 263	11 10 14 6
コミュニティ政策	4年	1	0
欧米文化	4年 3年 2年 1年	452 366 247 323	20 19 1 24
日本文化	4年 3年 2年 1年	829 426 475 400	5 6 1 0
児童	4年 3年 2年 1年	373 513 318 197	3 4 1 5
こども心理	4年 3年 2年 1年	174 253 73 121	6 0 0 1
人間福祉	4年 3年 2年 1年	225 427 86 162	3 0 0 2
科目等		114	2
学部生小計		7,648	144
院生・学生合計		8,249	144

VI その他(他館との協力等)

(2017年4月1日～2018年1月31日)

資料借用	47 (内、学生・院生 9)	複写依頼	224 (内、学生・院生121)
資料貸出	38	複写受付	604
紹介状発行	6 (内、院生 1)	視聴覚コーナー利用	522
紹介状受付	3	館内ノートPC貸出	2,303
文献検索	47	館内iPad貸出	296
		マイクロ利用	3

発行・編集 聖学院大学総合図書館
〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1番1号
電話 048-725-5461 FAX 048-780-1096
E-mail: lib@seigakuin-univ.ac.jp
URL: http://lib.seigakuin-univ.ac.jp/